

【1】 財政の動向および前年度収支の状況

1 財政の動向

令和4年度の一般会計歳入歳出予算は、当初29,450,000千円でありましたが、4月に4,700千円、5月に69,600千円、6月に693,700千円、9月に1,124,000千円をそれぞれ増額し、9月末現在の予算規模は、31,342,000千円となっています。これを前年度の9月末現在の予算規模30,758,400千円と比較しますと、1.9%の増加となっています。

特別会計の歳入歳出予算は、国民健康保険特別会計ほか3会計総額で当初12,122,800千円でありましたが、9月に186,295千円を増額し、9月末現在の予算規模は、12,309,095千円となっています。これを前年度の9月末現在の予算規模12,340,223千円と比較しますと、0.3%の減額となっています。

事業会計の収益的支出と資本的支出の合計は、水道事業会計ほか3会計総額で13,429,179千円となっています。これを前年度の9月末現在の収益的支出と資本的支出の合計13,099,497千円と比較しますと、2.5%の増加となっています。

2 令和3年度普通会計歳入歳出決算の概況

普通会計とは、地方公共団体間の財政比較等のため地方財政統計上統一的に用いる会計区分であり、一般会計と企業会計・事業会計等を含まない特別会計を合算した会計区分です。

令和3年度普通会計決算額は、歳入が32,150,400千円(前年度36,091,726千円)、歳出が31,256,894千円(前年度35,137,890千円)、前年度と比較すると、歳入は3,941,326千円(10.9%)、歳出は3,880,996千円(11.0%)の減となりました。

歳入歳出差引額(形式収支)は、893,506千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、761,741千円の黒字となりました。

歳入においては、自主財源のうち基幹的な財源である市税は、個人市民税が2.1%減少しましたが、法人市民税が0.7%増加となりました。固定資産税は、前年に実施した新型コロナウイルス感染症に伴う徴収猶予により滞納繰越となったものが納付されたことにより、土地で5.7%、償却資産で4.8%の増となりました。市税全体では0.9%の増となりました。

また、令和3年度から実施した小中学生の学校給食費の無償化などに伴い、諸収入が28.5%の減、基金からの繰入金が49.2%の減となり、自主財源全体で8.5%の減となりました。

依存財源では、地方特例交付金が442.6%の増、地方消費税交付金が7.5%の増、地方交付税が8.7%の増となりましたが、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策による特別定額給付金の給付終了などにより国庫支出金が42.5%の大幅な減となったことが、歳入全体に大きな影響を与え、依存財源全体で11.8%の減となりました。

歳出においては、目的別歳出決算で、総務費では、新型コロナウイルス感染症緊急経済対策による特別定額給付金の給付終了や、旧安曇川支所等の解体工事の完了などにより48.4%の減、民生費では、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金や子育て世帯への臨時特別給付金の給付などにより14.7%の増、衛生費では、新型コロナウイルスワクチン接種事業などにより8.0%の増、農林水産業費では、畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業などにより40.6%の増、商工費では、道の駅マキノ追坂峠売場拡張工事の整備完了などにより30.2%の減、土木費では、道路除雪業務委託料の増や橋梁長寿命化事業などにより10.1%の増、消防費では、消防庁舎改修（照明器具LED化）事業などにより6.6%の増、教育費では、ICT教育機器整備や今津スタジアム改修事業の完了などにより22.8%の減となりました。

次に、性質別歳出決算においては、義務的経費において、扶助費が住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金や子育て世帯への臨時特別給付金の給付などにより22.8%の増となり、全体では8.7%の増となりました。

一般行政経費においては、物件費が新型コロナウイルスワクチン接種委託料や道路除雪委託料などにより4.9%の増、補助費等が新型コロナウイルス感染症特別定額給付金の給付終了などにより48.4%の減となりました。

3 令和3年度収支の状況

実質収支	761,741千円	（前年度	855,088千円）
単年度収支	△93,347千円	（前年度	228,996千円）
実質単年度収支	△91,108千円	（前年度	△768,013千円）

（1）実質収支

令和3年度における歳入歳出差引額（形式収支）は、893,506千円の黒字となり、翌年度へ繰り越すべき財源を控除した実質収支も、761,741千円の黒字となりました。

（実質収支761,741千円＝歳入32,150,400千円－歳出31,256,894千円－翌年度繰越財源131,765千円）

（2）単年度収支

当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支は、

93,347 千円の赤字となりました。

(単年度収支△93,347 千円＝令和 3 年度実質収支 761,741 千円－令和 2 年度実質収支 855,088 千円)

(3) 実質単年度収支

単年度収支に財政調整基金への積立額および地方債の繰上償還金を加え、財政調整基金の取崩額を差し引いた実質単年度収支は、91,108 千円の赤字となりました。

(実質単年度収支△91,108 千円＝単年度収支△93,347 千円＋財政調整基金積立金 2,239 千円＋繰上償還金 0 千円－財政調整基金取崩額 0 千円)